



令和 6 年度

常滑市 広島平和学習派遣事業 報告書



目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

令和6年度 広島平和学習派遣事業・・・・・・2

参加児童報告書・・・・・・・・・・・・・・・・9



はじめに

今年のノーベル平和賞に、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が選ばれました。この日本被団協は、1956年に結成された、被爆者による全国組織です。

それから68年間、辛く苦しい被爆経験を語り、核兵器廃絶を世界に訴える活動や、被爆者の援護を求める活動を粘り強く続けてきました。

国際会議や国連の総会にも出席し、被爆者が「ノーモア ヒロシマ、ノーモア ナガサキ、ノーモア ウォー、ノーモア ヒバクシャ」と、心から訴え、核兵器の廃絶と、二度と戦争をしてはいけないという強いメッセージを世界中に送ったことは有名です。

2024年12月10日、ノルウェーの首都オスロでノーベル平和賞の授賞式が行われました。日本被団協の田中 照己さんは次のようなスピーチをしています。「核兵器をなくしていくためにどうしたらいいか、世界中のみなさんと共に話し合い、求めていただきたいと思います。」

今年度は広島平和学習派遣事業に市内小学校6年生の20名の皆さんが参加しました。この報告書には、2日間でそれぞれが感じたこと、学んだことが書かれています。

静かできれいな相生川が死体で埋め尽くされていたなんて。人影が壁に焼きつけられているなんて。火傷は治ったのに、数十年たってから後遺症や病気に苦しむなんて。家族全員が死んでしまい、一人だけ生き残るなんて。今も行方不明の人がいるなんて。誰か分からない遺骨があるなんて・・・。

見ていると辛くなるような遺構や資料を見たり、被爆体験者の体験談を聞いたりしながら、深く学ぶことができたようです。元気な参加者の皆さんが、一言も発せず、真剣なまなざしで考えこむ姿がとても印象的な2日間でした。

被爆体験者の八幡 照子さんは最後にこんなメッセージを伝えてくださいました。「争うのではなく、話し合うことが大切です。国同士もそうだけど、みんなもそう。友だちと何か問題が起こっても話し合って解決してください」

2025年は、原爆投下から80年の節目の年です。今回の平和学習で知ったことを「まずは、伝えなければ」と感じた児童がいます。

ぜひこの報告書を読んでいただき、多くの皆さんにも、それぞれの考えを深めたり広げたりしていただければと願っています。

（常滑市教育委員会）

令和6年度 常滑市広島平和学習派遣事業

1 目 的

広島市を訪問し、原爆投下の様子やその後の生活について知識を深め、原子爆弾や戦争が尊い命を奪う非人道的な行為であることを理解する。

世界では戦争や無差別テロなどが、いまだ無くならない現状にある。自他の生命を大切にする「平和都市 常滑」の未来の担い手として平和を愛する心を育てる。

2 内 容

(1) 実施日

11月23日(土)～24日(日) 1泊2日

(2) 派遣先

広島県 広島市

- ・平和記念公園（原爆ドーム、相生橋、原爆供養塔、記念碑、慰霊碑、平和の時計塔、平和の灯、平和の鐘等）

- ・平和記念資料館
- ・原爆死没者追悼平和祈念館（被爆体験講話）
- ・おりづるタワー
- ・広島市立袋町小学校平和資料館

広島県 廿日市市

- ・宮島 厳島神社

(3) 派遣児童（20名）

学校名	児童名							
三和小学校	片山	結陽						
大野小学校	福田	琉人	寺野	若				
鬼崎南小学校	加藤	琥太郎	山本	剛聖	村上	栞愛	武田	玲菜
常滑西小学校	花田	日菜子	高畠	唯衣	深見	悠生		
常滑東小学校	柴田	結人	山本	彩夏	泉	二葉	舟橋	誠之助
	大崎	桜子	桑山	侑士	河合	晴太		
西浦南小学校	梶浦	奈々	澤田	ほずみ				
小鈴谷小学校	澤田	海琉						

(4) 引率者（5名）

・鬼崎南小学校	校 長	杉本	憲保
・鬼崎南小学校	校務主任	酒井	大輔
・南陵中学校	養護教諭	佐藤	友紀
・学校教育課	指導主事	中井	明子
・学校教育課	主 事	津野	瑛介

3 日 程

<第1日> 11月23日(土)

7:00	参加児童集合 出発式	【出発式】 1 杉本校長の話 2 酒井先生の話 3 佐藤先生の話 4 市教委の話 5 集合写真撮影
7:20	バス乗車出発	
8:30	名古屋駅着	
9:23	名古屋駅発のぞみ113号	
12:36	広島駅着 (徒歩)	(予定よりも約1時間遅れで到着)
12:50	昼食	ひろしまお好み物語駅前ひろば
13:35	広島駅発・乗車 (路面電車)	 
13:50	原爆ドーム駅着・降車 (徒歩)	
14:00	宿泊旅館着 (徒歩)	宿泊旅館「広島の宿 相生」へ大きな荷物を預ける
14:10	慰霊碑めぐり	ボランティアガイドによる案内で平和記念公園内を散策 (原爆ドーム、相生川、相生橋、平和の時計塔、原爆供養塔、平和の鐘、平和の灯、記念碑、慰霊碑等)
15:00	平和記念資料館の見学	グループごとに自由見学
16:15 ～17:00	被爆体験講話	国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にて、被爆体験者 八幡照子さんのお話を聞く。
17:15	おりづるタワー	現在の広島市の夜景を見学する。
18:00	宿泊旅館着 振り返り・入浴・夕食	
22:00	就寝	

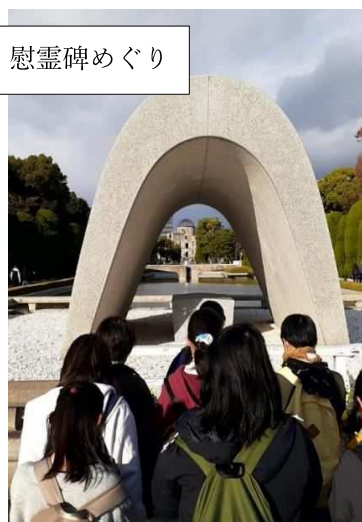
<第2日> 11月24日(日)

6:30	起床・準備	
7:00	朝食	
8:50	旅館発(バス)	
9:00	袋町小学校平和資料館着	説明VTRを見た後、自由見学
9:40	集合・出発	
10:10	宮島口着 (徒歩)	
10:35	フェリー乗り場着・乗船	
10:45	宮島着 (徒歩)	
11:10	厳島神社見学	ガイドによる案内で見学する
11:45	昼食:鳥居屋	昼食(お弁当)をとる。
12:10	散策	食べ終わったグループから、表参道商店街を散策しながらフェリー乗り場方面へ向かう。 お土産を購入する。
12:50	集合 フェリー乗り場へ移動・乗船 宮島出発 (フェリー)	
13:10		
13:20	フェリー乗り場着 (徒歩)	
13:30	宮島口着 バス乗車	
14:10	広島駅着	
14:43	広島駅発 のぞみ34号	
16:55	名古屋駅着 バスまで移動	
17:15	バス乗車・出発	
18:20	バス市役所着	
18:30	解散式	【解散式】
18:45	解散	1 杉本校長の話 2 酒井先生の話 3 佐藤先生の話 4 市教委の話

第 1 日目の様子



広島平和記念資料館・慰霊碑めぐり





被爆体験者の方と



広島夜景

第2日目の様子







参加児童報告書

<1番>

「広島平和学習を終えて」

片山 結陽(三和小学校)

僕は 11 月 23、24 日に広島平和学習に行きました。そこで原爆ドーム、平和記念資料館などを見学し平和について学びました。

今から 79 年前の昭和 20 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分に、広島に史上初めて原子爆弾が投下されました。このとき市内には約 35 万人の人々が町にいて 600m 上空で爆発しました。火球が飛び散り、約 14 万人の命が一瞬にして奪われました。



平和記念資料館、袋町小学校平和資料館等では、原爆投下時の写真を見たり被爆者の話を聞いたりしました。写真には、原爆による熱で体が燃えてしまった人々が写っていて、原爆の威力の恐ろしさを感じました。

実際に被爆した八幡 照子さんの話も聞きました。その日は朝から空襲の警戒警報が鳴っていたので防空壕に避難をしていました。そして警報が鳴り止んだときに外に出た瞬間に原爆の光を見てその後爆風を受けて倒れたそうです。助かった照子さんが見た風景は、周囲の家々が全壊して火が燃え広がっていたそうです。その時、僕と同じぐらいの年齢の子供たちも命令を受けて防火隊として火を消す作業をして二次被害を受け、黒い雨に打たれて被爆した方もたくさんいたそうです。その後照子さんの友達や大切な人もなくなったことを知ったそうです。はかりしれない悲しみを体験した照子さんが「平和な世界に必要なことは対話です。」と話していた姿がとても心に残っています。



今回の平和学習を通して、戦争を知らない僕たちができることは、被爆体験者の人たちが伝えていかなければ原爆の恐ろしさが忘れられてしまう、そんなことがないように。



また同じことが繰り返されないように。一人一人が思いやりの気持ちを持つ事、命を大切にする事、対話をしていく事、このことが平和につながっていくということを周りの友達や家族に伝えて行きたいと思いました。

<2番>

「不自由なく生きられるありがたさ」

福田 琉人(大野小学校)

原爆が落ちた後のくらはしはとても大変だったそうです。なぜなら帰る家もなく食べ物すらなかったそうです。避難所は負傷者ばかりで皮がなくなってしまうたり放射線に侵され黒い血をずっと吐いてる重症者もいたそうです。避難所として使われた場所は、原爆の爆風でボロボロでした。

現代では、スマートフォンで手軽に連絡を取ることができますが、その当時は壁にメッセージをのこすことで家族を探したりコミュニケーションを取ったりしていたと知りました。

僕は広島平和学習に行き、いかに、便利なものにあふれて不自由なく、暮らすことができるのかを改めて感じることができました。原爆や戦争についてこの2日間で多くのことを学びました。今回参加できなかった仲間にもこの学んだことを伝えていきたいです。

<3番>

「原爆ドームの訴え」

寺野 若(大野小学校)

私は5年生のときに国語でならった「たずねびと」や、戦争について書かれた本を読んで、原爆という恐ろしい存在を知りました。そして今年の春休みに広島へ行きました。ですが、外国の人がたくさんいて、その波に流されじっくり見られませんでした。なので、今回募集された平和学習に迷わず応募しました。調べたかったことは原爆による「物」への被害や被爆体験をした「人」の人生です。

まず原爆ドームが路面電車の窓から見えたとき、「もう原爆を落とすな」と訴えているように感じました。また案内してくださったガイドさんの平和の鐘の話で、「平和は皆で協力し、行動して作らなければならない。」が心に強く残りました。その時ちょうど、原爆ドームに虹がかかっているその場面と重なりより深く頭に残りました。

その後平和資料館へ行きました。春休みに行けなかったのを引き締めて入りました。真っ先に目に飛び込んできたのが頬にガーゼをし、腕に血まみれの包帯を巻いた、自分と変わらないくらいの年の女の子でした。この時、今、自分が平和の中にいて幸せなんだと今の生活の大切さに気が付きました。どんどん中に入ると、破れた服、曲がった鉄骨 黒焦げの人の絵、黒い雨など、まぶたの裏に残るものばかりで自分の目から大粒の涙が出ていました。色んな思いの中であっという間に時間が過ぎました。

その後、被爆体験の語り部の八幡照子さんのお話を聞きに行きました。その時代の高学年は、毎日戦争の歌を歌い、みんなで遊んだ綱引きの綱は国に持っていかれたそうです。原爆が落とされた時、火が迫ってくる中で照子さんの母が「みんなで死のう、みんな一緒よ！」と言ったことはどういうことなのか深く考えさせられました。

宿の部屋から見た原爆ドームと広島町は見ていてきれいとは思えませんでした。核兵器がなくならないかぎり・・・

平和について深く考えることの出来た二日間でした。この広島が地獄になったということは本当でした。「どんなに辛いことがあってもたった一つの命！命があればまた一歩踏み出せるじゃない！」語り部の照子さんの心に刻み込み、ここで目で見、聞いて考えたことを今を生きる戦争を知らない私の友達に、戦争の恐ろしさ、平和について自分で考えることの大切さを話そうと思います。

<4番>

「原爆が私達に教えてくれたこと」

加藤 琥太郎(鬼崎南小学校)

僕は今回の広島平和学習で、原爆ドームに行って感じたことを書きます。

原爆ドームの周辺は緑がない繁華街で、その周辺は原爆が落とされて周りに完全に人がいなくなり、半径 2、5 キロ以内にいた人たちは被爆し、原爆ドームの周りには皮膚が布のように垂れ下がった人々が大量に山や住宅街から出てきました。そして、それよりも離れた場所に家があった人たちの中には、放射線を浴びた人たちもいて、数十年たった今でも突然の病気で苦しむ方、いつ自分が死ぬのかわからなくて死に怯えている方々がいて、原爆ドームの近くの川(元安川)には大量に水を求めて川に飛び込み、安心で気が緩んで溺れて亡くなった方々も大量にいて、その人達の気持ちを考えるととてもつらいという気持ちもあるしその時すぐに亡くなれてよかった？という気持ちもあり複雑です。

次に広島で被爆した人の話を聞いて感じたこと、思ったことを書きます。

その時は国民学校に通いたてでお金が少ないけど頑張っていて、学校は楽しかったそうです。その日の朝、原爆が爆発してあたり一面明るくなり、衝撃波が発生し、被爆者の方は吹き飛ばされ気がつくと自分が吹き飛ばされた事に気づき頭から血が出て体中痛かったそうです。お母さんと呼ぶと呼び返され、お母さん(家族)と再会し、お父さんは二階からおばあちゃんを担いできて、お母さんは布団を持ってきてみんなで一緒に死のうと布団を被りましたが、お父さんは周りの人の救助に向かったので布団から出てお父さんの方に向かおうといって山を降りました。そして、お父さんの方に向かって最中、川の近くに着くと、地獄のようだったそうです。学校に行くと生きているのか亡くなっているのか分からない人たちが寝っ転がっていてその時、校庭に机が出されているのを見て近づいてみると机の上には遺骨が並べられていたそうです。一番心に残ったこと、感じたことは、広島平和資料館の最後の写真で、川の流れの下の方にあった遺骨を撮った写真です。その写真には遺骨が大量に写っていて、ちょっと怖かったです。

自分と年齢がそこまで変わらない子たちも竹槍で戦おうとしていたり、自分が死ぬと分かっている飛行機に乗ったりしていた人たちの事も知ってもう二度とこんな事を繰り返してはいけないと感じました。

今回の経験を通して平和の大切さを知ったので、自分に出来ることから一つずつ頑張っていこうと思いました。僕達の広島平和学習に同行して下さった教育委員会の皆様ありがとうございました。

<5番>

「恐ろしい」

山本 剛聖(鬼崎南小学校)

11月23日、24日に広島平和学習に行きました。新幹線に乗って広島に行くことが楽しみでした。出発までに原爆がいつ落ちたのか知りたかったので、原爆ドームについて、下調べをしました。昭和20(1945)年8月6日。狙いは相生橋でしたが、天候により広島県物産陳列館(原爆ドーム)に落ちました。朝の8時15分に原爆が投下され、約43秒間落下した後相生橋よりやや南東の、病院付近高度約600メートルの上空で核爆発を起こしました。実際の写真です。今にも崩れそうだと思いますか？実際に近くに行ってみたら、螺旋階段が溶けていてゆがんでいました。壁がかけていました。がれきが落ちていて、79年経っても爆発の威力が伝わってきました。



次は、川です。この川は、原爆ドームの目の前にある川で当時の川は人の死体だらけでした。みんな皮膚がただれて、水を求めて川に入りましたが、被爆して体に大きなダメージを負った人は体も心も限界の状況でした。その状態で水を飲んだり、触れたりすると、安心して緊張が解け亡くなってしまったそうです。その状況を知って、想像がつかなかったし、恐ろしいと思ったし、原爆で被害を受けた人は死ぬしかなかったんだと思いました。原爆で被害を受けた人たちは、死にたくないから水で焦げた自分達の体を冷やそうとしたけど、助からなかったんだなと思いました。



続いては原爆死没者慰霊碑です。これは原爆で被害を受けた人が亡くなった為に作られたもので、「安らかに眠って下さい 過ちは 繰返ませぬから」という意味で作られたものです。そのトンネルから覗いて一番手前の箱には被爆し、死んでしまった人の名前が書かれた本が収められています。毎年1年の終わりに記録が更新されます。中央にあるのがコンクリートで作られたオブジェです。このオブジェの意味は、平和の灯火という意味で作られたそうです。そして一番奥にあるのが原爆ドームです。僕達が到着した後から虹が出て来ました。写真に載っているのが、虹です。原爆の学びについて歓迎されているように、思いました。



この2日間をとおして市内の違う学校の友達ができるのが嬉しかったし、面白かったです。これからも皆で同じあやまちをおかさないようにし、世界遺産も大切にしましょう。



<6番>

「戦争してはいけない理由」

村上 栞愛(鬼崎南小学校)

私は、初めて広島へ行って戦争のことを学びました。想像以上にとても悲惨でした。原爆ドームや平和資料館を訪問し、特に心に残ったことを紹介します。

1945年8月6日、とても暑い夏の頃でした。その日は、朝から空襲警報がなり防空壕に避難して、警報がなり終わって安心した時です。あたり一面「ピカァー」っと光り、とてももない熱風と爆風がおそってきました。建物や人が一気に飛ばされて気を失い、目覚めるとまわりは、ガラスが刺さった人や皮膚がとけた人がいて「助けてー助けてー。」と言っている人がいて、まるで地獄のようだったそうです。絶望している時、大粒の黒い雨が降ってきて、その雨に濡れると急性障害になり、高熱や吐き気が続きます。また、放射線をあびた人は次から次にばたばた死んでいきました。熱くて川に逃げる人はみんなおぼれて死に、川一面にぶかぶか死体が浮かんでいました。これは、原爆を体験した八幡照子さんのお話です。戦時中、大阪から広島へひなんしてきて間もない時に被爆しました。照子さんの母は、これはただ事ではないと思ったのか「みんなで死のう。」と言ったほどでした。家族全員布団の中に入った時、大火災が起き、みんなは布団から出て近くの学校へひなんしました。移動中、机に並べられた紙袋の中身がクッキーだと思って中を見ると、お骨が入っていたそうです。親や大切な人を亡くした人が泣きながら「どこにいるんだー？返事して！！」とさけんでいました。町いっぱい人を焼く臭いがする中、一年生が校庭のがれきやガラスをとりのぞく作業をしていたそうです。

もう一つ恐ろしいと思ったことは、男の人は軍へ入ることとなり、特攻隊になる人を決める時のことです。特攻隊とは、飛行機に爆弾をつめて飛び、死を覚悟で相手に体当たりこうげきする部隊です。軍のえらい人は、特攻隊になることを拒む人を、「それでも男か？」と言い、意識がなくなりそうなぐらい殴られ、特攻隊に無理やり入らされたそうです。戦争はみんなの幸せをうばい、大切な家族、先生、友達を亡くして悲しい思いをします。どれだけ勉強をしたくても出来なかった。どれだけ生きたくても生きられなかった。戦争は、人の心を失い、良いことは一つもありません。平和に過ごすために大切なことがあります。平和は待っていてもやって来ません。行動することが大切です。今回学んだような戦争の悲惨さを、親や先生、友達に話し、広めることから始めていきたいと思いました。



<7番>

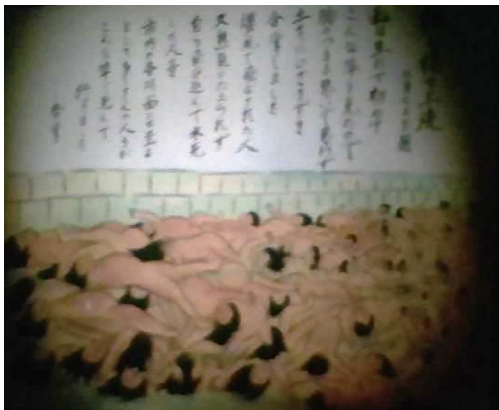
「広島が教えてくれたもの」

武田 玲菜(鬼崎南小学校)

私は世界遺産があり、人類初の原子爆弾が落とされた場所、「広島」に行ってみて、学ぶことがたくさんありました。

最初に見た原爆ドームは、近づいた瞬間驚愕しました。中は崩れ、らせん階段は溶けて建物としての形をなしていなかったからです。

また、ガイドさんの話で恐ろしさは大きくなりました。一番悲惨だなと思ったのは、原爆によってやけどを負った人は、水を求めて川へ行ったことです。結局水深3mもあつ



た川で溺れて亡くなってしまったからです。どちらを選んでも死んでしまうというのはとても悲しいことだと思います。また、原爆には熱線・爆風・放射線の力があり、4000℃の熱線、強い爆風、体に大きな害をもたらす放射線により建物や人、ものが大きな被害を受けたことを知りました。当時、初めてのことで何をしていたのかもわからない上に、病院もなくただ応急手当しかできない、してもらえない状況はとても辛くて怖かったら

うなと思いました。初めは、なぜ原爆が広島に落とされたのか不思議に思いました。でもそれは原爆が完成したアメリカ軍が、試験として、また、第2次世界大戦を終わらせるためでもあることがわかりました。それと、平和の鐘には、二度とこのようなことが起こらないように、1 日でも早く平和が訪れるようにという広島の思いが込められていると知り、優しい人たちが多いなと感じました。

被爆者の話では、衝撃的で生々しい話を聞くことができました。その時のご飯は一握りの米でかさ増ししていたことも驚きましたが、男性はほぼ全員軍へいかなくてはいけないことも驚きました。また、照子さんが体験した話では爆風により 5、6 メートル飛ばされたと聞きました。小さな体で 5、6 メートルも飛ばされたら、体は大きな衝撃を受けるだろうしおっしゃっていたとおり、頭も痛んだら、走って避難するのも大変だっただろうなとおもいます。焼野原を見たときはとても辛かっただろうなと思います。

私は一発の原子爆弾により無差別に命を奪い、生き残った人にも大きな被害を与えた戦争がこの世からなくなり、世界平和が来ることを広島に行って願いました。未だに戦争をしている国はあります。お互いに認め合い、平和が 1 日でも早く来るといいなと思いました。

<8番>

「平和学習で思ったこと、感じたこと」

花田 日菜子(常滑西小学校)

私が、平和学習で思ったこと、感じたことは大きく分けて2つあります。

1つ目は、戦争の悲惨さと平和の大切さです。

まず、路面電車に乗って原爆ドームに行きました。そこで、ガイドさんに被爆直後の状況と現在の広島について教えてもらいました。原爆ドームは日本文化遺産に登録されていると聞いて、日本に原爆が落ちたことを忘れないようにしようと思いました。

そして平和記念資料館へ行きました。前半には、被爆を受けた人々の様子や、被爆後の広島の様子などが展示されていました。見ていられないくらい辛い写真や絵がたくさんありました。後半には、被爆後の広島の復興や、平和に向けての世界の人々の取り組みなどが展示されていました。戦争の始まりから現在まで、広島のすべてが展示されていて、勉強になりました。

さらに、実際に被爆をされた方のお話を聞きました。お話を聞いていると原爆当時の様子が想像できて怖かったです。このように戦争の悲惨さを語ってくれる方に感謝したいです。

また、袋町小学校平和記念資料館にもいきました。小学校の伝言板にびっしりと文字が書かれているのを見て、必死に家族を探していることが感じられました。原爆の悲惨さを伝えるために多くの人が、この小学校を大切に保存してきたことが分かりました。

今まで知らなかったことを知ることができて良い2日間でした。

2つ目は、この広島平和学習がとても楽しかったことです。

行きの新幹線では、近くの子と人狼をしました。それをきっかけに名前を覚えたり、気軽に話せるようになって嬉しかったです。

おりづるタワーでは、班の子たちと広島の夜景を見ました。とてもきれいでした。下るときは一階ごとに壁一面絵が描いてあって面白かったです。

宿では、友達と一緒に夕飯を食べたり、カードゲームで遊んだりして楽しかったです。

フェリーで宮島に向かい、ガイドさんに宮島について教えてもらいました。私はレモン味のお菓子をお土産に買いました。さくさくキャンディーが特に美味しかったです。

2日間みんなと行動することが多かったので、みんなと仲良くなれて、良い思い出がたくさんできました。

平和学習ではしっかり学んで、友だちを作って、充実した2日間でした。

<9番>

「広島平和学習で学んだこと」

高畠 唯衣(常滑西小学校)

私が広島平和学習で学んだことは、戦争の悲惨さや平和の大切さ、そして仲間と協力することの大切さです。

最初に新幹線を降りた後、お好み焼きを食べました。その時は雨が降っており寒かったので、お好み焼きを食べたことで温くなりました。その次は路面電車に乗り、原爆ドームに行きました。写真で見るよりも悲惨で、79 年前にその場所に原爆が落ちたんだなと感じました。ガイドさんは、原爆のことをしっかり教えてくれました。時々ダジャレなどを挟んでいたのも、面白かったです。

次は平和記念資料館に行きました。中に入ると人がたくさんいて、外国人もいました。そのことから、原爆の被害のことは、海外にも伝わっているんだなと思いました。次に、実際に被爆した方のお話を聞きました。その話はとても苦しく、想像するととても怖いと思いました。ご飯もなかなか食べられずに過ごしていたと考えると、美味しいご飯を食べれることに感謝したいです。

その後、おりづるタワーに行きました。本当は昼に行く予定でしたが、新幹線が 1 時間遅れてしまいました。一時は行けないかと思いましたが、行けて良かったです。昼には見れない広島の夜景を見ることができて、なんだかラッキーだなと思いました。みんなで写真を撮って、とてもいい思い出になりました。その後は歩いて一階まで行き、旅館に向かいました。夜ご飯を食べ、お部屋に行くと原爆ドームが見えました。夜なので原爆ドームが光っていて少し怖かったです。お風呂に入りみんなで布団を敷き、人狼ゲームをしました。人狼ゲームをやっている時間はすごく楽しかったです。

翌日、朝ご飯を食べた後にバスで袋町小学校に行きました。学校にはたくさん伝言があり、被爆当時に大切な人を一生懸命探していたんだなと感じました。その後、バスで宮島行きのフェリー乗り場まで行きました。バスの中で喋れる子が増えて嬉しかったです。宮島にはたくさんの人や鹿がいてびっくりしました。テレビでよく見る大鳥居がありました。大きくてとても迫力がありました。その時は干潮だったので、鳥居に触れることができました。お土産もたくさん買えて良かったです。

楽しく学べて、すごくいい思い出になりました。

<10番>

「原爆が私達に教えてくれたこと」

深見 悠生(常滑西小学校)

広島に行っているいろんなことが学びました。その中で、原爆ドームや原爆、平和記念資料館、被爆体験者の話を書きます。

原爆ドームの上空 600m で原子爆弾が爆発しました。今では原爆ドームと呼ばれていますが、これは誰かが名付けたのではなく人々にそう呼ばれるようになったそうです。もともとは相生橋を目標にしていたらしいのですが、天候が悪く原爆ドーム上空になったそうです。

次に原爆についてです。原爆は原爆ドームの半分を破壊するほどの威力を持ち大量のエネルギーと放射線が放出され、地面の温度は約 3000℃にもなるそうです。また人間はその熱で溶けてしまい影だけ残るそうです。

次は平和記念資料館です。原爆の恐ろしさや残った服、火傷を負った姿まで見られます。

そしてそこに行って思ったことがあります。なぜ人々は戦うのかです。こんな恐ろしいことをやっていて辛くないのかなと思いました。そして罪のない人々にも被害が出ているのでごく悲しい気持ちになりました。

最後に被爆体験者のお話です。その人の名前は八幡 照子さんです。

八幡 照子さんは私よりも小さい 8 歳のときに被爆を体験しています。

1944年己斐国民学校に入学しました。照子さんの初めての遠足の日の弁当はご飯半分と焼き芋半分だけとすごく少なく、お米もなかなか手に入らないような生活でした。ラジオでは、日本は負けているのに、勝っていますと嘘の情報を流していたそうです。そんな中、原子爆弾が広島と長崎に落ちました。落ちたあと、あたり一面は焼け野原だったそうです。

僕は戦争を二度としてはいけないと思いました。今僕たちが生きている時間がとても大事だからです。だからこそもう一度いいますが戦争は二度としてはほしくないです。今回、貴重な体験ができてとても良かったと思います。ありがとうございました。

<11番>

「原爆の恐ろしさ」

柴田 結人（常滑東小学校）

僕は広島に行って原爆の恐ろしさを知りました。原爆ドームでは実際に建物の様子から原爆の威力を知って、更にガイドさんのお話で原爆ドームが壊れるまでにかかった時間は 1 秒で、原爆が落ちた真下の温度は、約 3000 度と聞いて驚きました。供養塔では、名前すらわからない人が 7 万人もいて地下に埋められていると聞き、悲しくなりました。平和の灯を見て、一刻も早く戦争がなくなって、平和な世の中が来るといいなと思いました。平和記念公園にある慰霊碑は、アーチ状になっていて、そこから見ると、平和の灯と、原爆ドームが見える設計になっていました。

平和記念資料館では、もっと原爆の恐ろしさを感じられました。原爆でなくなった人やボロボロになったものを見ると、とても怖くて、心が痛くなりました。特に、被爆して生き残ったものの、数年後突然病気にかかって死んでしまった人もいるという話が心に残っています。

その後、実際に原爆を受けた人の話を聞きました。その人は、原爆が爆発したとき、約 5 メートル飛ばされてしまい、顔中血だらけになってしまって、学校に行って手当を受けましたが、焼かれて骨だけになってしまった人もいた、ということが心に残っています。自分の家族がそうになったらと思うと、ゾッとしました。昔の日本の攻撃の仕方のことも心に残っています。それは、爆弾を抱え特攻するというものです。燃料も、行く分の燃料しかなく、ほぼ確実に死にます。昔の日本はとても恐ろしいと思いました。

お話が終わったあと、おりづるタワーに行きました。そこでは原爆ドームや他の建物が一望できて、綺麗でした。ぼくは、この景色が一生残ってほしいと思いました。

2 日目、袋町小学校資料館というところに行きました。袋町小学校資料館という場所は、実際に原爆の被害を受けた小学校が資料館になって残されています。被爆後、小学校は、避難所となっていて、怪我をした人々が、大勢集まりました。その時に自分の家族などを探すために黒板に名前を書いて探しました。その時の黒板の様子を再現しているものがありました。そこにはたくさんの名前が書いてあり、原爆の被害の大きさがとてもよくわかりました。原爆を受けたあとと、受ける前の広島の様子の写真もありました。受ける前はあった建物が、受けたあとは跡形もなくなっていました。ぼくはこの平和学習を通して、広島でおきたこの出来事を決して忘れず平和な戦争がない世の中が来てほしいと思いました。

<12番>

「私達ができること」

山本 彩夏(常滑東小学校)

皆さんは平和や戦争について考えたことや調べたことはありますか。わたしは 11 月 23 日 24 日に平和学習に行ってきました。原爆ドーム、広島平和公園、広島平和記念資料館に行き平和や戦争、原爆について学んできました。

最初に行った原爆ドームではガイドさんが解説や説明をしてくれながら見学をしました。原爆ドームを見たときは原爆の爆風によって変形したものや熱線によって溶けたガラス、瓦を見てとってもびっくりしました。原爆ドームは、元々原爆ドームという名前ではなく広島県物産陳列館と言う名前で特産品を展示したり販売したりしていたそうです。その後名前を変え広島県産業奨励館という名前になりました。そして 1945 年 8 月 6 日に原爆が落とされました。原爆ドーム南東から約 160m、高度約 600m の位置にあたります。建物内にいた人はすべて即死しました。建物の屋根やドーム部分は鉄骨部分を除き、多くは木材で作られていたので真上からの爆風に対して屋根は中心につぶされ、厚く作られていた側面の壁は完全には押しつぶされず壊れませんでした。

それから「はだしのゲン」が通っていた本川小学校では 400 人のうち 1 人しか生きられませんでした。放射線があるところの 2km 以内 1 分以内で死んでいってしまい、また、地上に残された放射線で死んでいくのです。

それから熱線によって人々は手足の皮膚が焼けただれている状態でした。あまりの熱さに元安川に飛び込んだそうです。けれど急に水に触れたショックで血を吐き死んでしまった方や元安川が深かったので溺れ死んでしまう方もいたそうです。

被爆した方からの当時のお話も聞きました。その方は小学二年生の頃に原爆にあったそうです。戦争で食べ物が減ってきたのでかさ増しして雑炊にしていました。日本が勝っていると嘘だけれど信じていました。物資も不足していき綱引きをする綱とお別れをしたそうです。そしてみじ谷という場所に避難したそうです。朝ご飯は団子汁、昼ご飯はなし、夜ご飯はおむすびでした。

この原爆で約 14 万人の方が亡くなりました。今私たちにできることは戦争は絶対にしてはいけないことを周りの人たちに伝えることです。

<13番>

「広島に行く前の私とこれからの私」

泉 二葉(常滑東小学校)

私が広島に原爆が落とされたことを知ったのは5年生のときです。国語の時間に「たずねびと」という授業で広島県に原爆が落とされたことを知りました。それまでは怖いなという思いだけでしたが、広島に平和学習で行ける事になり、事前に調べました。

調べたのは原爆ドームで、第二次世界大戦末期に、広島市に投下された原子爆弾によって破壊された広島産業奨励館残骸を、当時のまま伝えるために残してあることがわかりました。

実際に原爆ドームを見てみると、思っていた何倍もボロボロで崩れていました。鉄の部分は溶け、窓は全滅。すべて吹き飛ばされていました。窓が吹き飛ばされているから建物の中に建物の破片が落ちていました。爆心地ではないのにこんなに崩れて、被害を受けていることを知り、どれだけ強い爆風だったのか気になりました。



平和祈念資料館はとても怖かったです。当時の風景が絵や写真に残されていて、亡くなった人の実際に着ていた服も飾られていました。爆弾で目が片方見開いてしまっている人や骨の上に皮膚がたれさがっている絵や写真が壁に飾られていて、資料館にいる間私はとても生きた心地がしませんでした。

袋町小学校は爆心地から約460m、朝礼が終わったときに被害を受けた小学校です。

その黒板にはたくさんの伝言が残っていました。‘生きていますよ’など家族に伝えるため名前などが書かれており、当時の必死さが伝わってきました。爆風によって窓ガラスが割れたり、どれだけ重い太鼓も大きい穴ができてしまうほどの強い威力だったことがわかったり、それでも生き残っている人は奇跡だと思いました。



当時の袋町小学校は現在、袋町小学校平和資料館として生まれ変わり、たくさんの折り鶴が飾られていて、みんなの平和を願っていることが伝わってきました。

今回の平和学習で一番感じたことは、原爆が落ちたら生き残る確率は少ないということです。当時の悲惨さを知ることができ、改めて原爆は怖いと思いました。



今回の平和学習で学んだことを家族や友達に話して、たくさんの人に悲惨な戦争だったことを伝えていきたいです。そして忘れないように平和について話す時間をたくさん増やしていきたいです。

<14番>

「平和に過ごすために」

舟橋 誠之助(常滑東小学校)

僕は広島平和学習で、広島平和記念資料館や原爆ドームに行き、実際に被爆した人からいろいろなことを教えてもらいました。一番ビックリしたことは、被害にあって真っ黒になって死んだ人が校舎に張り付いていてそれを剥がしている人がいたという話です。こうした話をたくさん聞いて、本当に戦争は怖いなと思いました。実際に被爆した人から、体験のお話を聞いたから、より恐ろしさを実感することができました。

原爆ドームは、あまりにも激しい崩れ方をしていたのでびっくりしました。原爆ドームは残っていたけど周りの街は全部壊れている写真を見たので、原爆ドームは、かなり頑丈なことを知りました。また、原爆は恐ろしい破壊力を持っていることがわかりました。

そして原爆ドームを保存するため、五回も修復工事をしていることを知りました。当時のま



ま保存されているということは、原爆を忘れないでほしいということを願っているのだと思いました。

広島平和記念資料館は、暗いところで怖い感じがしました。原爆の写真や被害者の写真などがたくさんありました。また、原爆で炭化した弁当や三輪車、ヘルメット、服とかも展示されていました。広島に原爆が落ちた様子の映像もありました。また、広島に落ちた原爆は、人と同じぐらいの大きさだと知りました。意外と大きくてびっくりしました。

原爆が落とされたのが僕は、200年前ぐらいだと思っていましたが、79年前だと知り結構最近なんだと驚きました。広島平和学習に行く前は、戦争は遠い存在だと思っていましたが、広島に行き戦争は結構身近な存在なんだと実感できました。広島に行って良かったと思っています。戦争の怖さ、原爆の怖さを知ることができて、戦争をもう二度と起こしちゃだめだと思うようになりました。日本だけではなく世界中の人が広島に行き、戦争の怖さを知り平和は当たり前のことではないことや平和の大切さを知ってほしいです。

<15番>

「これからも忘れてはいけないこと」

大崎 桜子(常滑東小学校)

私はこの2日間で、原爆の怖さと被爆した人の大変さを学びました。また、このことを忘れずに未来に伝えていかななくてはならないと感じました。

事前に学習したことによると、「爆心地から約 1.2km 以内で熱線の直射を受けた人は、皮膚が焼きつくされ、内臓までも障害を受け、ほとんどの人が亡くなりました。また、約 3.5km 離れたところにいた人でさえ、素肌の部分は火傷を負いました。」ということでした。これを調べたときに、たくさんの人が被害を受けたんだな、と思いました。しかし、広島市観光ボランティアのガイドさんのお話によると、それだけではありませんでした。原爆が落ちたすぐ近くには相生川という川があり、爆発の熱から逃れようと、たくさんの人が川に飛び込みました。川は人で埋め尽くされていたようです。相生川は深さ3mもあり、飛び込んだ人全員が溺れて亡くなりました。この話を聞いたときに、5年生のときに国語の授業で習った「たずね人」の話を思い出しました。担任の先生の話では、原爆が落ちた周辺は 3000～4000℃にもなるそうです。そのことから、川は熱湯だと思います。全身をやけどしながら、溺れて亡くなっていく人のことを考えたら、とても痛くて熱くて苦しかっただろうと思います。

また、被爆したけど生き延びた人もいます。生き延びた人は生き延びた人の辛さがあると私は思います。私達が話を聞いた被爆者の方は、この8月6日のことを思い出すたびに辛い気持ちになると話していました。当時8歳だった被爆者の方のおでこには79年たった今でも傷が残っていました。怪我の傷以上に心に大きな傷が残っているだろうと感じました。避難所となっていた小学校の教室にはたくさんの患者さんがいて、中には「たすけて」と叫んでいる人もいました。校庭は、火葬場となっていてたくさんの死体が運ばれてきて死体の山ができていました。8歳の小さな女の子がそんな悲惨な光景を見て、とても怖かっただろうし、一生忘れられない光景だと思います。その後その学校に通うことになったら、学校に行くたびに思い出してしまい、辛い気持ちになると思います。また、つい10日前にも被爆講話の活動をしている仲間の方が白血病で亡くなったそうです。これは、被爆したときに浴びた放射線による影響です。79年たった今も大切な仲間を失い、自分もいつ影響を受けて、死んでしまうか分からないと思ったら怖いだろうと思います。このようなことから、生き残った人たちでも、今も原爆による影響で苦しんでいるという大変さを学びました。思い出すことですら辛いことなのに、私達に話をしてくださったのは、「絶対に、戦争をしてはいけない」ということを伝えるためだと思います。これから先、実際に被害を受けた人がいなくなったとしても、受け継いでいかなければいけないことです。ガイドさんたちのように直接話をしたり、学校の国語で習ったように物語で伝えたり、今回のような平和学習を受ける機会が増えたらいいと思います。

今の私にできることは、友達に平和学習で学んだことを伝えたり、知識を増やしたりすることだと思います。少しずつ自分にできることを増やして、平和を祈りたいです。

<16番>

「広島に行ってみて」

桑山 侑士(常滑東小学校)

広島に行って一番印象に残った場所は、原爆ドームです。写真で見るより迫力があって、驚きました。原爆ドームの中にいた人は、一瞬で塵になったと聞いて怖かったです。でも、原爆ドームでさえ今にも崩れそうな姿なので、そうなってもおかしくないと思いました。偶然、原爆ドームに虹がかかっていて凄かったです。

次に、原爆ドームに近い橋に行きました。今はものすごく綺麗なのに、当時は大量の死体が浮かんでいたらしく、信じられませんでした。原爆投下直後の橋は、悲惨なことになっていたそうです。そんな橋を直した人達は凄いと思います。

そして、原爆供養塔納骨名簿と、遺族が見つからない人の墓に行きました。79年たった今でも、原爆供養塔納骨名簿にたくさんの人が書いてあって、まだ数万人いると聞いてびっくりしました。外国から来た人も巻き込まれていて、かわいそうでした。広島平和都市記念碑を見るとたくさんの人が黙とうをされていて、観光で来ている人が、この時だけ真剣そうに見えました。噴水も迫力がありませんでした。

平和資料館に行くと、三輪車や、鉄かぶと、破れた服、弁当箱、絵などがありました。絵から伝わってくる当時の状況は、地獄のような場所になっていたと思います。遺族の言葉も書かれており、悲しさ、悔しさでいっぱいでした。

そして、被爆体験証言者の八幡照子さんに話を聞きに行きました。8月6日、8歳の時、隣に行くために裏庭に下りた時、突然、窓がピカーツとなって、地面に伏せようとして、意識を失ったそうです。母の叫び声に気づくと、辺り一面土煙だったそうです。火葬場と化した校庭、変わり果てた父の友達、黒い雨、紫色に変色した赤ちゃん、黒い血を吐いていたお姉さん、放射線物質によってがんになってしまい、亡くなってしまった照子さんの友達。どの話もとても勉強になりました。被爆した学校にも行きました。黒板を伝言板として使っていたそうです。

戦争は、辛くて悲しいので、二度とおこってほしくないです。



<17番>

「一緒に広島に行った仲間たち」

河合 晴太(常滑東小学校)

僕は、11月23、24日に一泊二日で広島に行ってきました。

僕は、広島に行くのが初めてで、広島について知っていたことは原爆が落ちたということだけだったので行ってみたいと思っていました。行く前に、原爆が落ちて広島県に住んでいた人の何人が犠牲になったのか、なぜ広島に原爆が落とされたのかを事前に学習しました。事前学習で知ったことは、原爆で34万人がなくなってしまったこと、広島に落とされた理由は、空襲による被害が少なく原爆の効果が試しやすかったからだそうです。事前学習でいろいろ知ったけれど現地に行って他のことも知りたいと思いました。

まず、最初にバスと新幹線に乗って広島に行きました。その時にいろいろな人と喋ったりカードゲームをしたりして、友だちになる一歩を踏めたと思いました。広島に到着して、駅の近くで広島風のお好み焼きを友達と食べられて美味しかったです。次に路線バスに乗って原爆ドームまで行きました。ガイドさんの案内で、原爆ドーム周辺を歩きました。原爆死没者慰霊碑の中には、原爆でなくなった人の名前が書かれた本が何冊もあるそうです。落とされる前は普通の街でしたが、被爆したことをみんなに知ってもらうために公園を作ったこと、水が飲みたくて相生川に飛び込んで大火傷を負った人がいたこと、橋がめくれてしまったこ



とに驚きました。次に広島平和記念資料館に行きました。資料館では、被爆した人の服や自転車などが見れてよかったけれど、少し怖くてちょっと目をそむけてしまいました。次に被爆者の方の話を聞きました。話を聞くとわかりやすく、被爆者が学校の校庭で火葬をしていて、骨を配っていたということを聞いてかわいそうだなと思いました。他にも学校の教室にやけどした人がたくさんいたと言っていて、原爆は怖いなと思いました。次の日に袋町小学校に行きました。小学校では、原爆が残ったものなどが見えて勉強になりました。

1日目の夜には、一緒に行った仲間たちと、おりづるタワーに行きました。最上階に行ったら景色が綺麗で、友達と写真をとりました。おりづるタワーから下に降りるまでスロープを友達と早く降りたら風があたって、気持ちよかったです。旅館「相生」では、友達と話して過ごした時間がとてもたのしかったです。2日目は、フェリーで宮島へ行ったり、仲間たちと観光を楽しんだり、その後常滑市まで帰りました。

最後に振り返って、広島平和学習に行って、原爆の恐ろしさをもっとわかったし、平和のことも学べたし、友達もできてよかったです。これからも学んだことを活かして、いろいろな人に教えてあげたいと思いました。

<18番>

「1人1人の命」

梶浦 奈々(西浦南小学校)

「命一つをかけがえに百人千人斬ってやる」

私が平和学習で一番印象に残ったのはこの「特別攻撃隊「斬込隊」という歌の冒頭です。被爆者の方から「太平洋戦争中小学六年生の子達が歌っていた。祖国の勝利のために身を滅ぼしてでも敵を倒す。」という話がありました。今では私ぐらいの子たちが学校で歌うなんて想像もできませんが、それが当たり前の時代が約 80 年前にあったことに驚きました。また、戦時中の戦況を伝えるラジオ放送では、事実とは異なった日本軍の優勢



を伝えるものが流れていて、国民たちは『欲しがりません、勝つまでは』と、厳しい食料事情に襲われて、米が足りず雑炊にして食べることが多かったのにも驚きました。

もう一つ、印象深かったのは、袋町小学校資料館の伝言についてです。原爆投下以降、救護所になっていた袋町小学校には、負傷者の他にも、家族・友達を探している人や自分たちの安否を知らせたいと思う人達が黒板にいろいろな伝言を書いたそうです。その中でも『さいとうせつこ』という、原爆投下時 1 年生だった女の子が負傷したことを叔父が書いた伝言が、何十年もの月日を経て母と、妹に伝わった、という話などが紹介されてました。母と妹はせつこさんに実際に会えたわけではありませんが、小学校の黒板の伝言を通じてあの日のせつこさんに会えたのではと思いました。



私がこの 2 日間で思ったのは、原爆や戦争で何百万人の人が怪我をしたり、亡くなってしまったことは知っていたのですが、お話をうかがって、その人達、一人一人にも友人や家族、愛する人がいて私達と同じように遊んだり、働いたりしていたこと、戦争は小さい子供さえも巻き込み普段の生活を一変させてしまったことなど、実際に行って見て聞いたからこそ、戦争の悲惨さや、悲しさが伝わってきた気がしました。二度と、戦争を繰り返さぬよう、核爆弾が世界からなくなるよう、私ができることは 2 日間で見聞きしたことを家族や知人にしっかり話すことだと思いました。

<19番>

「戦争のない平和な世界を」

澤田 ほずみ（西浦南小学校）

私は戦争のない平和な世界を求めています。広島平和学習でみた、原爆ドームや資料館、被災者からの言葉をもとにそう考えています。原爆ドームは外から少し見えた地面に大量の瓦礫がありました。



原子爆弾は 1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分に相生橋から 300m ほど離れた病院の上で爆発しました。原子爆弾は地上 600m のところで爆発し、熱線、放射線、爆風により多くの一般市民が死亡、行方不明となりました（14 万人）。爆風は風速

280m。人々は爆風によって飛ばされ亡くなりました。放射線を浴びた人はその時は生きていても放射線による癌でいつ亡くなってもおかしくありません。今も苦しんでいる人がいます。熱線は 4000 度まで熱くなり人々は熱いので川に逃げました。しかし川は深さ 3m。人が密集しているので泳ぐこともできず、溺死する人がいました。原爆の怖さを知りました。



被害者からの話を聞きました。「原爆が落ちたあと空からは大雨が降ってきた。しかもその雨は放射性物質の入った黒い雨だった。その時傘はないので雨に当たるしかなかった。なので高熱や吐き気がした。きれいな水はなく誰もが黒い水しか飲めなかった。もみじ谷の避難所には骨がたくさん埋まっていた。避難所で食べた白いご飯はとても美味しかった。小学校の教室には負傷している人、亡くなった家族や友達を悲しむ人、死体が残っていた。校庭には 2000 人分の骨があった。自分の姉を失った」という内容でした。これについて私は「命は大切にすべき、平和に生きていけることに感謝すべき、当たり前のことを大切に」そう考えました。この思いを乗せて私はこの広島平和学習で出会った友達と平和の鐘を鳴らしました。核兵器、戦争、紛争がこの世界から去ってほしいです。



<20番>

「僕がこの広島平和学習に行って感じたこと」

澤田 海琉(小鈴谷小学校)

私はこの広島平和学習を通して、原爆の恐ろしさ、今の広島のまちとの大きなちがいを強く感じました。学んだことを2つ紹介します。

1つ目は、原爆ドームでの学びについてです。広島平和学習に行って、まず原爆ドームに行きました。上空 600 メートルから落とされたリトル・ボーイは、巨大で、すごく恐ろしい兵器だと思いました。そして、原爆資料館では顔が焼けて溶けている人、骨が山積みの様子、亡くなる前に言った最後の言葉などの恐ろしいものやショッキングなものばかりでした。そして、このようなことが日本で起きていたと知り、悲しくなりました。このようなことがもう起きてはいけないということを原爆ドームが教えてくれたんだなと私は思いました。他にも、原爆を受けた人から聞いた話の中で、ガラスの破片で多くの血を流しながら、苦しみながらも生きた、という話をきき、つらさや悲しさがとても伝わってきました。

2つ目は、今の広島のと戦争のときの広島のとちがいのことです。おりづるタワーからの景色は、今はとてもきれいだけど、原爆を受けたあとは、この辺りはなにもなく、平らで、おりづるタワー、屋台、サッカースタジアムもなかったと思うと、戦争の恐ろしさが伝わってきます。袋町小学校では、「あの日の声が聞こえますか」という映像を見ました。袋町小学校のドアが割れて壊れて、窓も割れて壊れて、壁一面真っピンクになっていました。その壁は、一度は直されたそうですが、まちの人々の、「壁は直さず、伝言の跡は残したほうがいいんじゃないの？」というたくさんの声を受けて、壁をもとの状態に戻し、痕跡を残して残し、今に伝えるそうです。小学校という身近な場所に、恐ろしい跡があることが、とても怖く感じました。

これらの体験を通して、タブレットを使って写真で記録したことや、レポートに書いたことを、みんなに伝えることが、広島平和学習に行った20人の大切な役割だと思いました。学んだことを大事にし、もう二度と同じことをしないことが、平和につながるのかなと思いました。この体験をきっかけに、これからの学校生活や自分の人生でも、この広島平和学習のことを頭に入れ、日本や世界でもう戦争が起きない世の中にしたいと思いました。



令和6年度
常滑市広島平和学習派遣事業報告書

発 行 日 令和 7 年 2 月
編集・発行 常滑市教育委員会